

## 第5回食品産業振興に向けた支援方針策定に係る専門家会議要旨

- 1 開催日時 令和2年2月6日（木曜日） 14:20～15:00
- 2 開催場所 東京都庁第一本庁舎25階103会議室
- 3 出席委員 春見委員（座長）、黒川委員、松岡委員
- 4 議事 都内食品産業振興に向けた提言書～中間まとめ～
- 5 概要  
「都内食品産業に向けた提言書～中間まとめ～」についての意見交換・最終確認を行った。
- 6 提言書（中間まとめ）の確定  
※委員からの特段の意見なし ⇒ 確定
- 7 主な委員意見
  - ・食品研、産技研、公社がそれぞれの特色を生かしつつ、融合することが大事であることは、そのとおり。
  - ・ただし、単なる融合ではなく、どういう理由で融合するのか、具体的な目的・内容が重要であり、言葉だけの話で終わらないようにすべき。
  - ・支援に関して、それぞれの支援機関が特徴を持っているが、業者に十分に認知されていない状況があり、具体的に支援機関を利用しようとする方に認知させていくことも大切
  - ・専門家会議後半の議論では、それぞれの支援機関の利用頻度が高い事業者をゲストスピーカーとして招き、「利用にあたってそれぞれの支援機関のどこに魅力があるのか」、「どのようにして利用しているのか」など意見を聴いた上で、事業者が都の支援機関を利用しやすくなるために、より具体的な検討を進めていってほしい。
  - ・機関の融合に向けて、ワーキングやPTなどを立ち上げて、各支援機関がどのような知見・技術などを有しているか棚卸から始めると良いのではないか。例えば中堅クラス、若手クラスの職員がメンバーとなり、将来の構想などについてブレインストーミングをしていくなど。
  - ・食品市場を取り巻く環境が大きく変化する中で、都内食品産業の情報についてデータベース化できると良い。企業の商品、ブランド、技術に関し、各支援機関で持つ様々な情報を取りまとめると見えてくるものがあるのではないか。

- ・マーケティングについて、デザイナーやクリエイターにキャンペーンを取り仕切ってもらい、様々なイベントの実施やWebサイトを構築するなど、マーケティングのプラットフォームのようなものがあると良いのではないか。また、色々な技術を使いたい事業者と、事業者が欲しい技術を持つ企業をマッチングさせる機能があると良い。
- ・組織面の整備も大事であるが、それだけで完成というわけではなく、ソフト面での支援の充実をどうしていくかが重要
- ・研究開発だけではカバーできない面もあり、データを集積・蓄積することも必要。また、組合などの組織に属していない企業などが、課題解決のための糸口を持っている可能性もあり、こうした企業の掘り起こしも重要である。
- ・研究だけでなく、現場の苦勞を知ることも必要であり、行政としても、是非、事業者の立場にたって、食品産業の振興に向けて何が必要なのか、どういった支援をするべきなのかを考えてほしい。